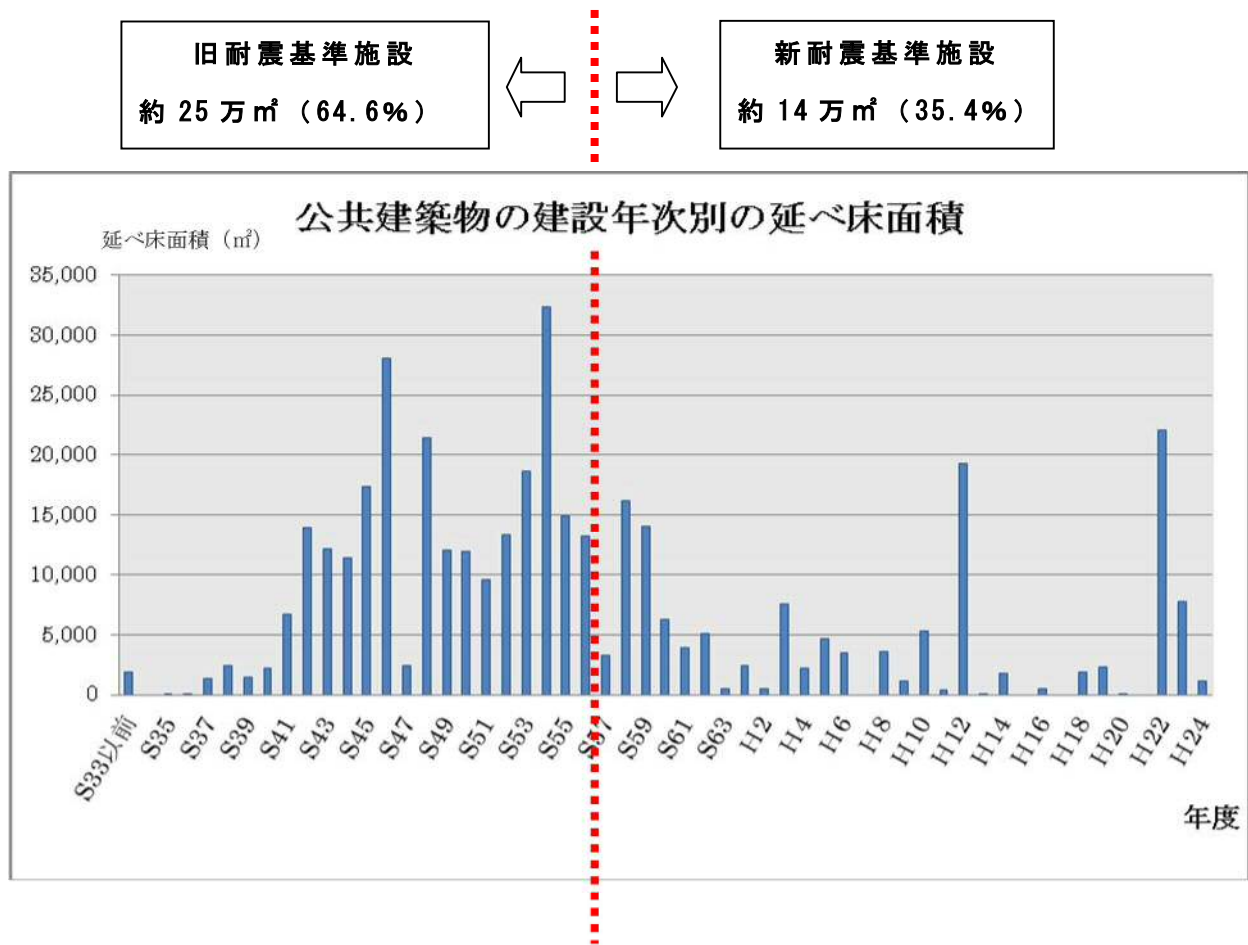


2 施設保有状況

(1) 公共建築物の推移

青梅市が所有する公共建築物は、平成24年度末現在、総計305施設で、延べ床面積は38万㎡超と、東京ドームに換算して8個分に相当する量になっています。

昭和40年から60年までの間に市民ニーズや行政サービスの多様化が進み、学校、市営住宅、市民センター、病院などの大規模施設の約7割が建設されました。



延べ床面積あたりの築後経過年数

築 40 年以上	築 30 年以上	築 20 年以上	築 10 年以上	築 10 年未満
3 1 . 8 %	3 7 . 6 %	1 2 . 2 %	9 . 1 %	9 . 3 %

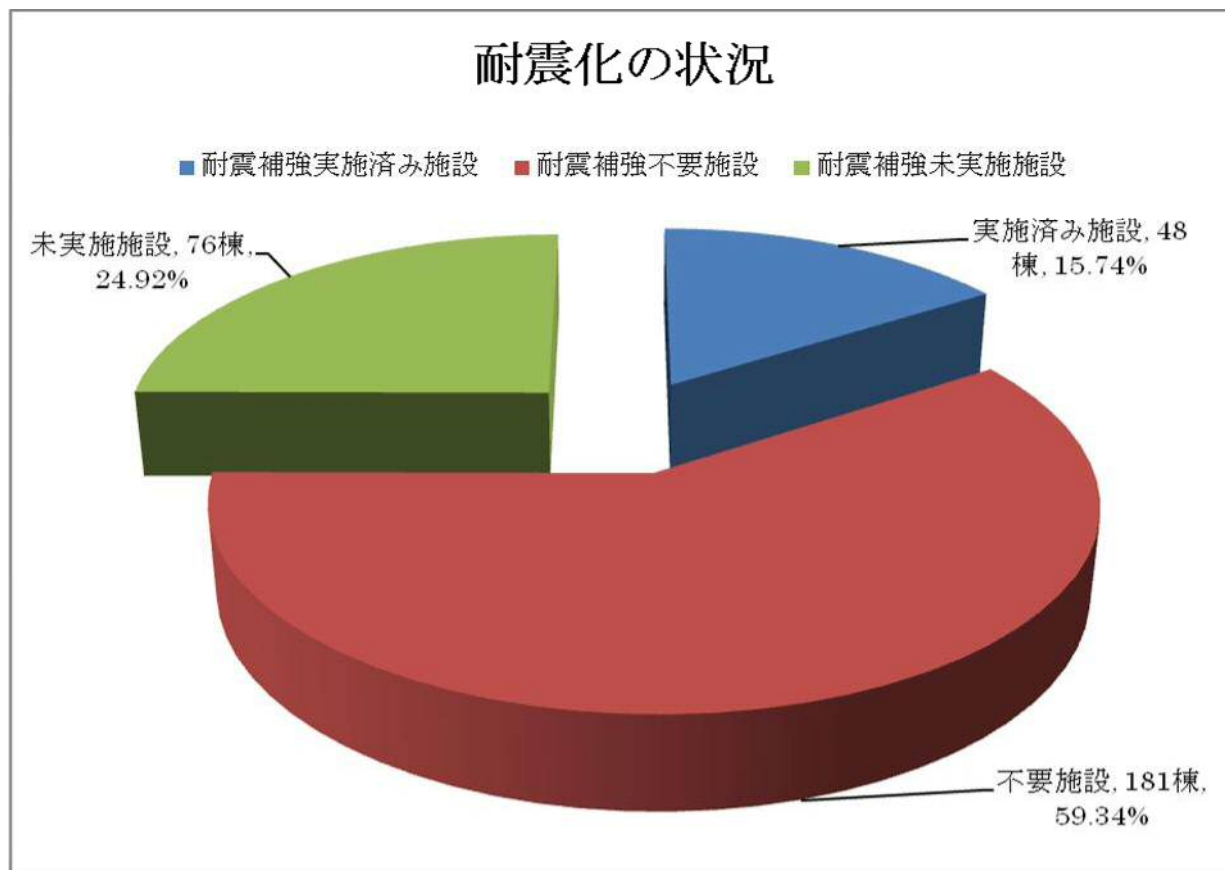
公共建築物の築後平均経過年数は、29.3年であり、築後30年以上を経過した建物面積は、全体の69.4%となります。

公共建築物の耐震化については、平成20年3月に「青梅市耐震改修促進計画」が改正され、平成27年度末までに90%の耐震化率を目指しています。

なお、旧耐震基準で建設された学校施設（体育館を含む）は、平成24年末までに全ての耐震改修工事が完了しました。

今後、災害時の防災拠点となる施設や不特定多数の市民が集まる施設の耐震化を引き続き進めていく予定です。

平成24年度末現在



平成24年度末現在、市が保有する建物305施設のうち、旧耐震基準（昭和56年以前）で建設され、耐震補強工事が実施された建物は48棟（15.74%）です。

また、耐震補強が不要な建物は181棟（59.34%）あることから、耐震補強が未実施な建物は76棟（24.92%）です。

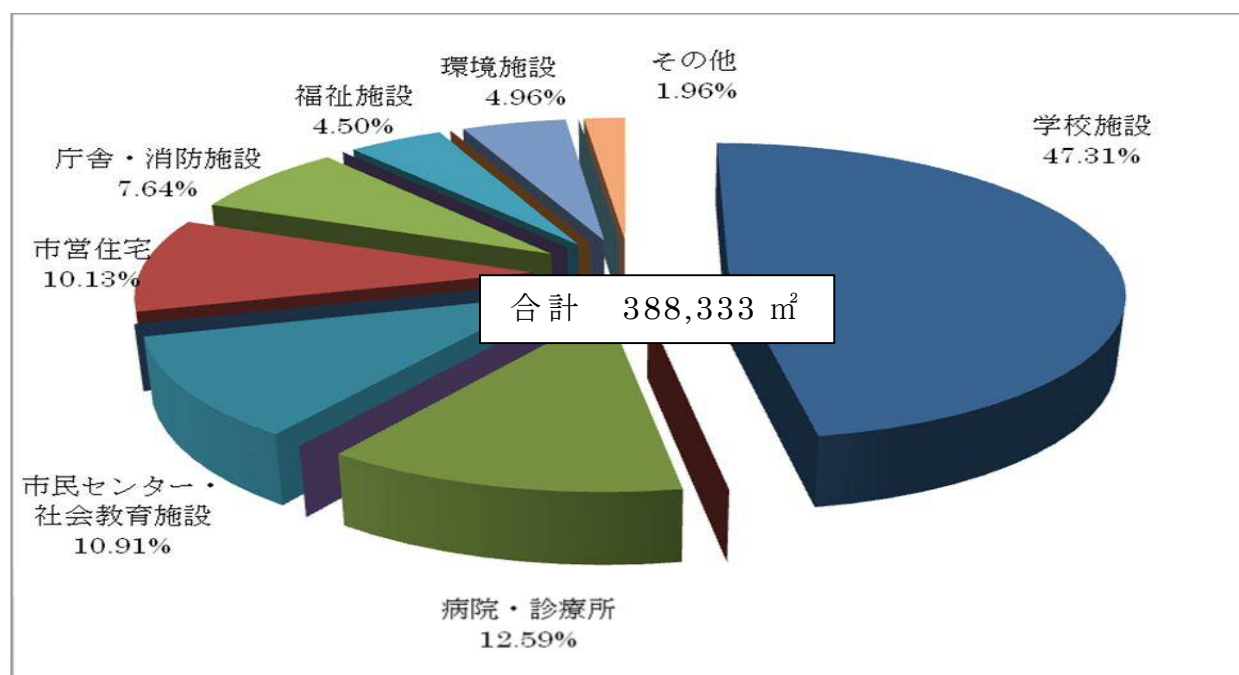
(2) 用途別保有状況

延べ床面積における用途別の面積比率では、最も大きい施設が「学校施設」であり、全体の約47.3%を占めています。次に大きい施設が「病院・診療所」の約12.6%、「市民センター・社会教育施設」の約10.9%となっており、この3つの用途で全体の約7割を占めています。

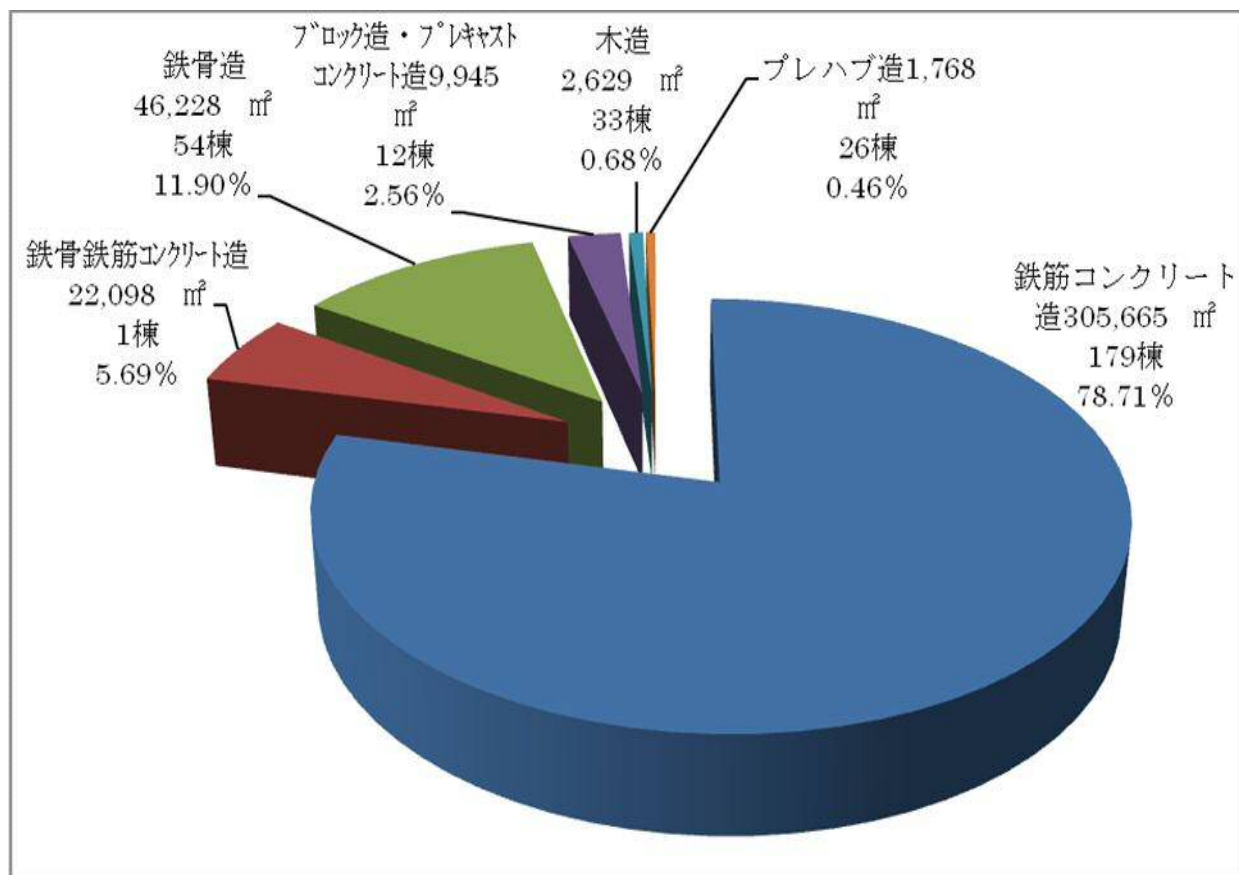
また、施設数を比べてみると、「消防団の器具置場や防災倉庫」が54施設で最大であり、次に「学校施設」や「公衆便所」が多くなっています。

平成24年度末現在

施設区分	施設数	延べ床面積 (㎡)	面積割合 (%)
学校施設 (体育館含む)	53	183,730	47.31
病院・診療所	13	48,901	12.59
市民センター (体育館含む)・ 社会教育施設	50	42,366	10.91
市営住宅	26	39,348	10.13
庁舎・消防施設	57	29,652	7.64
福祉施設	15	17,478	4.50
環境施設	82	19,254	4.96
その他	9	7,604	1.96
合計	305	388,333	100.00



建物の構造別における面積比率では、全体の約 79%が「鉄筋コンクリート造」で建築されています。次に多い構造が「鉄骨造」や「鉄骨鉄筋コンクリート造（庁舎）」で、この3つの構造種別で全体の約 96%を占めています。



(3) 公共施設配置状況（延べ床面積 500㎡以上）

青梅市のコミュニティ活動については、自治会が中心的な役割を担っており、地域づくり活動、地域の防犯・防災、環境整備など各種活動を行っています。市域が広く、大きく異なる地域の事情を踏まえ、11の地区が地域コミュニティを支える単位として区分されています。

この地区ごとに配置された主な公共施設の状況は下記のとおりです。

地区（支会）名 施設名		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	
		青梅	長淵	大門	梅郷	沢井	小曾木	成木	東青梅	新町	河辺	今井	
広域対応施設	市役所(1)								■				
	東青梅センタービル分室(1)								■				
	福祉施設	健康センター(1)								■			
		福祉センター(1)								■			
		子育て支援施設(1)									■		
		高齢者施設(2)					■	■					
		障害者施設(3)			■					■			■
	社会教育施設	ふれあいセンター(3)	■				■		■				
		釜の淵市民館(1)	■										
	文化施設	市民会館(1)	■										
		郷土博物館(1)		■									
		美術館(1)	■										
	スポーツ	総合体育館(1)										■	
		永山体育館(1)	■										
		プール施設(2)			■							■	
	総合病院(1)								■				
市営住宅(24)	■ ■	■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■	■ ■ ■			■ ■		■		■ ■	■ ■	

地区（支会）名 施設名		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	
		青 梅	長 淵	大 門	梅 郷	沢 井	小 曾 木	成 木	東 青 梅	新 町	河 辺	今 井	
広 域 対 応 施 設	環境施設(3)		■				■			■			
	共同利用工場(1)											■	
	葬祭場施設(2)		■ ■										
	下水ポンプ場(2)	■										■	
	交通公園(1)			■									
	給食センター施設(2)								■			■	
	臨床研修医、看護職 員住宅(2)								■ ■				
	東青梅駅北口自転車 等駐車場および公衆 便所(1)								■				
地 域 対 応 施 設	小学校 (体育館含む)(16)	■	■ ■	■ ■	■	■	■	■	■	■ ■ ■	■	■ ■	
	中学校 (体育館含む)(10)	■	■	■ ■	■		■	■	■	■ ■			
	市民セン ター施設	市民セン ター(11)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		体育館(11)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

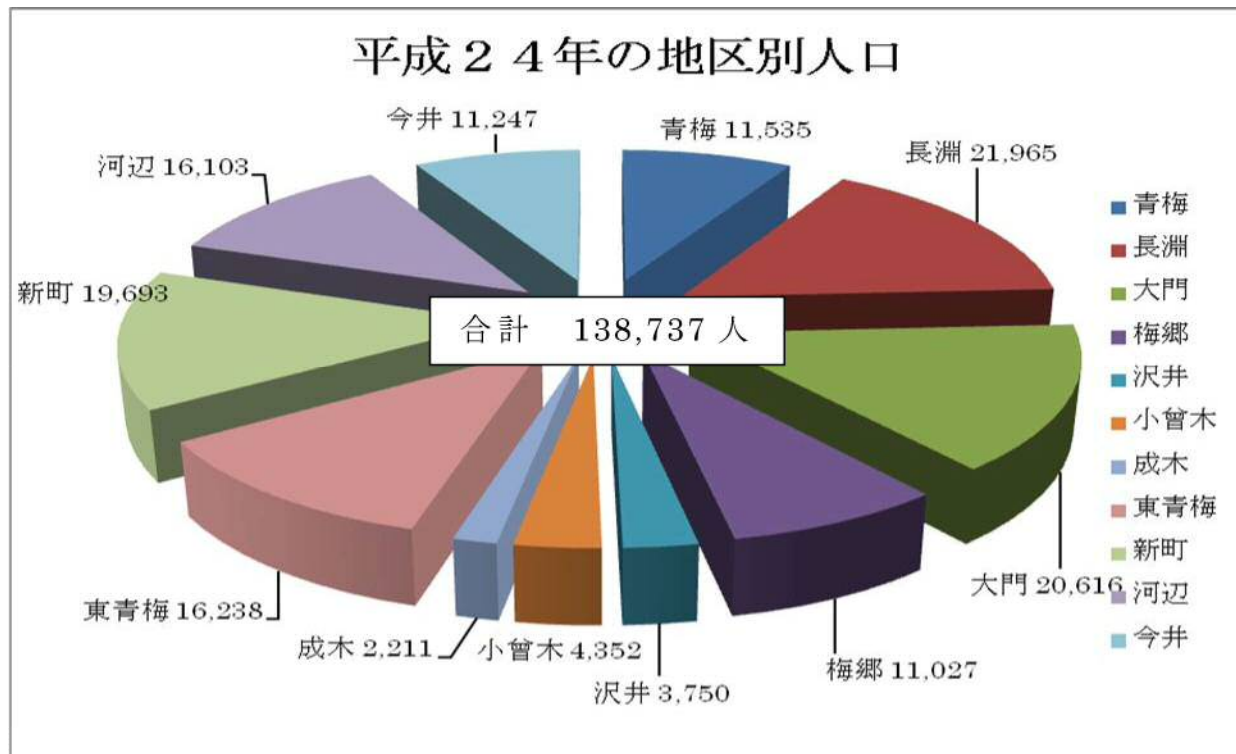
公共施設は公共サービスの拠点となり、全市民を対象とした広域対応施設と、地域住民を対象とした地域対応施設に分けることができます。

上の表は、地区ごとにおける公共施設単位の配置状況を、施設別・地域別で多面的に把握するための資料です。

平成24年10月現在の地区別人口は下記のとおりです。

第6次総合長期計画では、平成34年の人口推計が市全体では134,000人程度と見込まれ、地区によっては著しく人口減少が進む地区があります。

単位：(人)



※平成24年10月1日現在

出典：第6次総合長期計画・基本計画

青 梅（第 1 支会）：勝沼、西分町、住江町、本町、仲町、上町、森下町、裏宿町、天ヶ瀬町、滝ノ上町、大柳町、日向和田

長 淵（第 2 支会）：駒木町、長淵、友田町、千ヶ瀬町

大 門（第 3 支会）：吹上、野上町、大門、塩船、谷野、木野下、今寺

梅 郷（第 4 支会）：畑中、和田町、梅郷、柚木町

沢 井（第 5 支会）：二俣尾、沢井、御岳本町、御岳、御岳山

小曾木（第 6 支会）：富岡、小曾木、黒沢

成 木（第 7 支会）：成木

東青梅（第 8 支会）：東青梅、根ヶ布、師岡町

新 町（第 9 支会）：新町、末広町

河 辺（第 10 支会）：河辺町

今 井（第 11 支会）：藤橋、今井

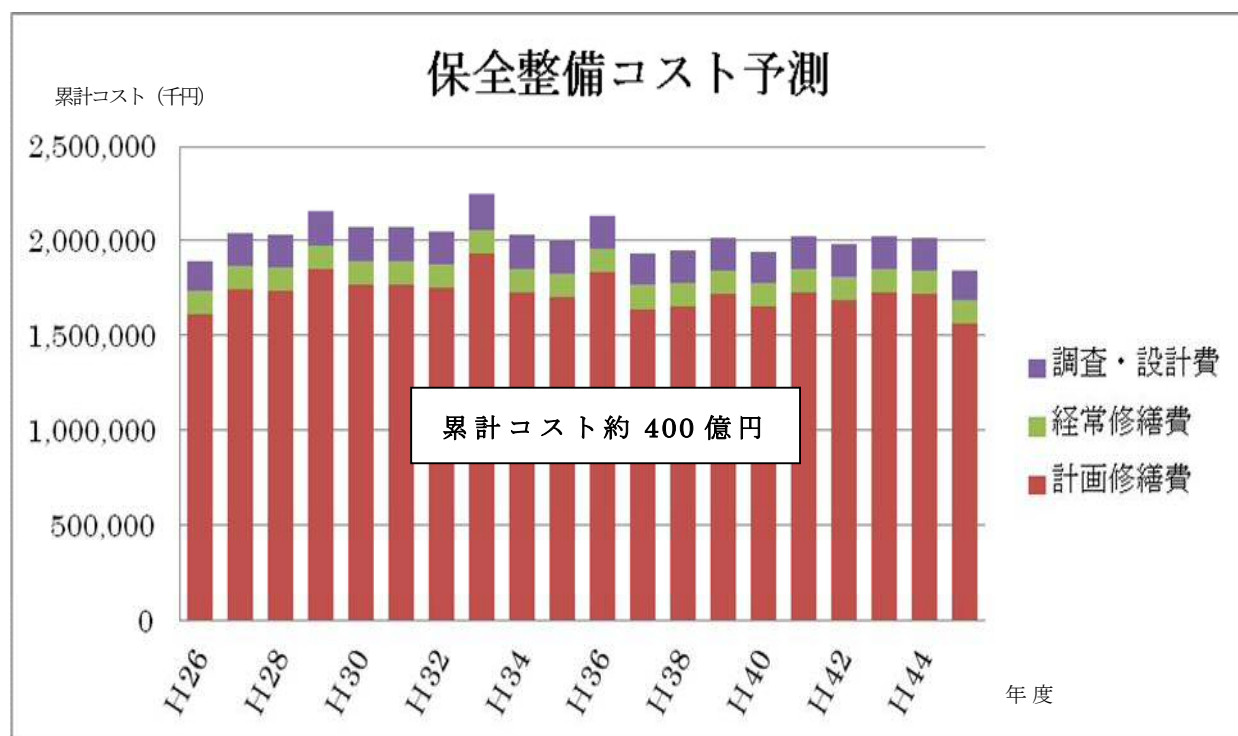
(4) 施設にかかるコスト（費用）の試算

建築物を維持管理するにあたっては、修繕・改善、管理・運用、更新などの様々なコスト（費用）が必要になります。

保全整備コストの試算は、これらのコストの内、老朽化していく施設を延命化するために、長期的な視点から今後発生する主な修繕・改善コストを予想して算定を行います。

そこで、「青梅市公共建築物保全整備計画」の対象（延べ床面積500㎡以上）である141施設の保全整備コストを算出した結果、今後20年間の総保全整備コストが約400億円と試算されました。

なお、市の予算状況を考慮して年度ごとに保全整備コストを平準化した場合、平成26年度～45年度までに必要な1年間の保全整備コストは平均で約20億円となります。



また、これら（延べ床面積500㎡以上）の施設について、今後10年間のライフサイクルコストとして試算した場合、施設を適切に保全するための保全整備コストは約208億円、施設を維持管理・運営するためのコストは約567億円と試算され、合計コストは約775億円が必要となります。

(※巻末の参考資料より)